

重文 首里城京の内跡出土陶磁器保存修理事業とは

当センターでは、重要文化財を長期的に保存し、国民共有の財産として公開、活用を図るために、文化庁の補助を受け、出土品の保存修理事業を実施しています。

平成16（2004）年度から始まったこの事業は、これまでに陶磁器と金属製品を合わせて200点以上を修理し、保管用の桐箱を約100点製作しています。



陶磁器類

指定を受ける前に、割れてバラバラになった破片を接合し、その破片が埋まらなかった部分は石膏で埋めて割れる前の形を復元していました。この石膏復元から約20年が経ち、石膏が外れてしまっているものもあり、軽くて強度のある樹脂で再度復元しています。その際に形や文様の検証も行っています。

金属製品

錆の進行を抑えるため、脱塩と樹脂含浸を行います。脆くなっている部分を補強したり、欠損部分を復元することもあります。

保管箱

修理が終ったものは、桐箱に収め保管されます。その箱は、出土品を破損から守ることはもちろん、取り出し易さも考えて作られます。京内の重要文化財は、碗や皿など比較的小さく同じような大きさのものが多く出土していることから、中に仕切りがあり数点まとめて納められ重ねることができるコンテナ型桐箱を作っています。このコンテナ型桐箱に収まらないものは、個別で出土品に合ったサイズの箱を作っています。



令和4年度の主な修理内容

青磁盤 (236)



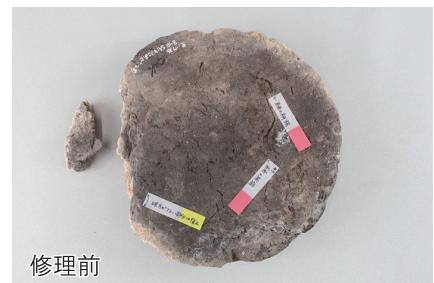
修理前



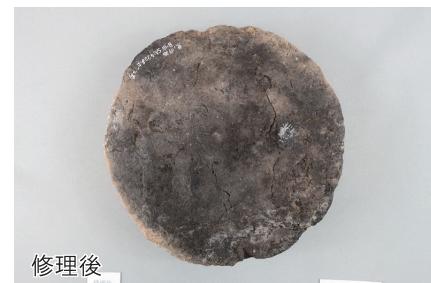
修理後

石膏が割れてしまい埋め込んでいた破片が外れてしまいました。また、石膏復元の時には埋め込まれていなかった破片が4点あり、形や文様、胎土を検証した結果3点は同じものと判断し埋め込んで修理しました。

その他（沖縄産か）蓋 (216)



修理前



修理後

今は割れていない部分にも亀裂があり、ものの自体の重みで徐々に亀裂が大きくなる恐れがあったため、全体的にパラロイドを塗布し補強しました。パラロイドを塗るとテカリが出てしましますので、表面の質感が大きく変わらない程度に留めました。

明染付碗 (327)



修理前



修理後

石膏復元はしていませんでしたが、破片も多く残っていましたので今年度、修理しました。残っている破片から文様が推定できるところは樹脂で復元した部分にも文様を入れました。

金属製品 武具小札(第58図108)



修理前



修理後

2つに折れたものを接合していますが、接合部分が小さく外れてしまう可能性があったため、欠損部分を樹脂で補填しました。この補填部分は彩色も行い、残っている破片部分と馴染むようにしています。